

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年9月19日

京都市长宛

提出者

住所 京都市伏見区下鳥羽広長町101番地

氏名 医療法人社団 蘇生会
理事長 津田 永明

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 075-621-3101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	蘇生会総合病院
事業場の所在地	京都市伏見区下鳥羽広長町101番地
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：医療福祉 中分類：一般病院
②事業の規模	病院 290床 介護医療院60床
③従業員数	651人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	感染性廃棄物 保管庫→ 収集運搬 → 処分 (委託業者) (委託業者)

(日本産業規格 A列4番)

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	排 出 量	t	t
(これまでに実施した取組) 分別マニュアルによる周知 感染対策の強化により、排出量は増加傾向			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり	
	排 出 量	t	t
(今後実施する予定の取組) ・新入職員へのごみ分別の説明 ・ごみ分別の掲示の強化			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類：感染性廃棄物 取組：他の産業廃棄物との分別の徹底
	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き 分別の徹底に努める

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		別紙集計用シートのとおり
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		別紙集計用シートのとおり
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		別紙集計用シートのとおり
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		別紙集計用シートのとおり
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行つた特別管理産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙集計用シートのとおり t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託先の現地確認		

(第5面)

【目標】	
特別管理産業廃棄物の種類	
全処理委託量	別紙集計用シートのとおり t t
優良認定処理業者への 処理委託量	t t
再生利用業者への 処理委託量	t t
認定熱回収業者への 処理委託量	t t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t t
<p>②計画</p> <p>(今後実施する予定の取組) 優良認定処理業者への委託</p>	
【前年度(令和5年度)実績】	
電子情報処理組織の使用 に関する事項	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。) 194 t (今後実施する予定の取組等) 電子マニュフェスト導入済
※事務処理欄	

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

特 別 管 理 広 延 物 处 理 計 画 書 の [集計用シート]

- 下表にない種類の特別管理産業廃棄物については、「特別管理産業廃棄物の種類」欄に、品目名を記載してください。
- 行が不足すれば、適宜追加してください。

特別管理産業廃棄物の種類	① 傷出量(ト)	② 自ら直接再生利用した量(ト) (海洋投入物分をした量)	③ 自己保管店販の又は (海洋投入物分をした量)	④ 自ら中間処理した量(ト)	⑤ そのうち熱回収を行った量(ト)	⑥ 自ら中間保管した後の残さ量(ト)	⑦ 自ら中間処理により減量化した量(ト)	⑧ 自ら中間処理した後 再生利用した量(ト)	⑨ その他中間処理した後 再生利用した量(ト)	⑩ 一括譲渡及び自己保管 (したるのと同様扱い)	⑪ その他中間処理 (海洋投入物分をした量)	⑫ ①～⑩の合計(ト)	⑬ ⑪～⑫の合計(ト)	⑭ ⑬～⑪の差(ト)	⑮ ⑭の差(ト)を合計したもの (自動計算)	⑯ ⑮の差(ト)を合計したもの (自動計算)	
	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績
はで子供でもいる種類(リサイクル等再生利用率の高い種類については、実施行つて下さい。)																	
当該事業場において生じた 産業廃棄物の種類ごとの量 分のものについては、実施行つて下さい。	①の量のうち、中間処理をせず 直接自ら再生利用した量	②の量のうち、中間処理せざる 海洋投入物分又は 海洋投入物分をした量	③の量のうち、中間処理した、 産業廃棄物の当該中間処理前の量	④の量のうち、中間処理した後 の量を熱回収を行った量	⑤の量のうち、中間処理した後の量 の量からその量を差引いた量	⑥の量のうち、自ら利用し 又は他人に売却した量	⑦の量のうち、自ら熱回収分 及び海洋投入物分をした量	⑧の量のうち、自ら中間処理した後 再生利用した量	⑨の量のうち、自ら中間処理した後 再生利用した量	⑩の量のうち、船舶運送者への 委託料金(運送料)	⑪の量のうち、船舶運送者への 委託料金(運送料)	⑫ ①～⑩の合計(ト)	⑬ ⑪～⑫の合計(ト)	⑭ ⑬～⑪の差(ト)	⑮ ⑭の差(ト)を合計したもの (自動計算)	⑯ ⑮の差(ト)を合計したもの (自動計算)	
機油(引火性)								0	0			0	0			0	0
機油(特管)								0	0			0	0			0	0
機アルカリ(特管)								0	0			0	0			0	0
感染性廃棄物	194	193						0	0			194	193			194	193
機PCB等								0	0			0	0			0	0
機石綿等								0	0			0	0			0	0
機油(特定有害)								0	0			0	0			0	0
污泥(特定有害)								0	0			0	0			0	0
合計	194	193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194	193	0	0	194	193

(注)ト�未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。